

## 発達障害



# 思わず深刻に…小5息子に障害を告知

前回にお伝えしたペアレン特・トレーニングで、家では明るくなった息子のリュウ太ですが、小学5年生でいじめっ子と同じクラスになってしまい、毎日嫌がらせをされてイライラしていました。担任の先生に「リュウ太くんがイラ

告知をしたとき悲しい顔をしていました

小5

イラして急に怒る理由が分からず、戸惑つて怖がる子もいます。このままでは孤立してしまいます」と言われ、とてもショックでした。やられたらやり返してしまった息子は、被害者でもあります。加害者でもあるので、いじめっ子のことはお互いさまざま取り合ってもらえたのです。

どうすればいいのか悩んでいたとき、ASD（自閉症スペクトラム障害）の子供の親御さんが、学校に子供を知つてもうつて共存共生する。それまで考えたこともなかつた道が初めて見えました。周りに迷惑をかけないためにも、こちらから発信しようとしたのです。

受けたクリニックの心理士さんには「理屈が理解できる中学生になつてか

らがいい」と言わっていました。でも私は本人に伝えないまま、障害特性が原因のトラブルを一緒に解決するのにはイラつくる理由がある!」(同)な

ど、発達障害だからこそ私は本人に伝えないまま、障害特性が原因のトラブルを一緒に解決するのにはイラつくる理由がある!」(同)な

青年期までの日々を漫画にしてシリーズや、障害者支援の現場を描いた「障害のある人の支援の現場探訪記」(学研プラス)などがある。

にはイラつくる理由がある!」(同)な



## 悩むカミングアウト

わが子の発達障害をカミングアウトするかどうかは、保護者にとって大きな悩みであり、判断も分かれる。「周りの理解を得てお互いに過ごしやすくしたい」という考え方もあるれば、「皆が障害に理解があるわけではなく、色眼鏡で見られる」という不安もある。

発達障害の家族支援に力を入れる一般社団法人「発達障がいファミリーサポートMarble（マーブル）」（東京）の代表、国沢真弓さんによると、過去に相談を受けた中では、公表したことでの味方が増え、フォローを受けやすくなつたケースが多いという。

ただ子供の状態や担任、クラスの保護者のタイプなど状況は個々に異なるため、「公表した方がいいとは言い切れない」とも。障害名は言わず、授業中に飛び出すなど障害特性から起りうる行動について説明する方法もあるとし、「悩んだら一人で苦しまず、親の会などに相談してほしい」と訴える。（藤井沙織）

告知のタイミングについて、診断を知っていました。息子にはまだ、発達障害の告

白を受けたクリニックの心理士さんには「理屈が理解できる中学生になつてか

敗です。その後、発達障害だからこそこの息子の強みを伝えたりしてフォローしました。

クラスにペーパーを配付すると、私を避けるようになつた親御さんもいましたが、「うちの子もそうなの」と話しかけてくれる親御さんもいました。何より、息子をサポートしてくれる子が増えました。

告知のタイミングについては、いろんな考え方があると思います。当時のことを見た大人になつた本人に聞くと、「最初は障害って言葉に地獄に落とされたときにつらかった。でも少しずつ向き合えるようになつて、中学のときには自分で本を読んで障害について理解できた」と。そうやって息子は少しづつ、人づきあいにも上手になつていきました。

次回は25日掲載予定

画面で掲載していきます。漫画を読みます。

な

し

る

の

か

ん

な

し

る

の

か

ん

ご感想を募集します

コラム「発達障害 ボコ道」への皆さんのご感想を募集

します。メールでhattatsu@sankei.co.jpまでお送りください。

かなしこーちゃん

千葉県生まれ、漫画家、イラスト

レーター。少女漫画誌「なかよし」（講

談社）でデビュー。著書に「漫画家ママ

のうちの子はADHD」「発達障害 横